

新聞報道によると、企業の健康保険組合と協会けんぽ、公務員などの共済組合や船員保険を合わせた被用者保険の2020年3月の医療費動向は、総額1兆1,257億円、患者が医療機関にかかった件数は9,415万件、前年同月と比べると、医療費の1.3%減に対し、件数は11.5%減となりました。これは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が大きいと推測されるため、ここでは3月の薬事工業生産動態統計調査のデータ*1を用いて、出荷数の減少している機器を調査してみました。方法は、ステップ1として全医療機器の中から、新型コロナウイルス感染症が影響し始めたと推定される3月に出荷数が減少した機器を抽出しました。次にステップ2では、既に1月、2月に減少している場合は、別の要因があると考えられるため除外しました。さらにステップ3では、各月の変動幅が大きい機器は3月の減少もノイズの可能性があるので除外しました。最後にステップ4では2020年1月の出荷金額が2,000万円以上の機器12種類に絞り、国内生産、輸入、国内出荷、輸出、月末在庫各数量の推移を図1～図12に示しました。

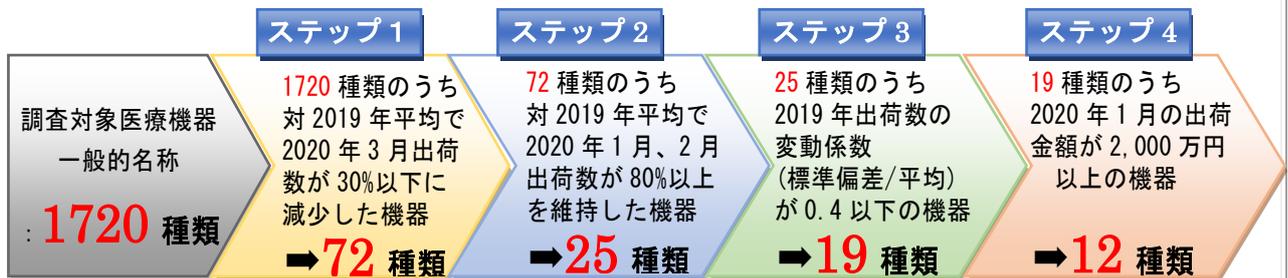


図1. 加熱式加湿器の統計データ

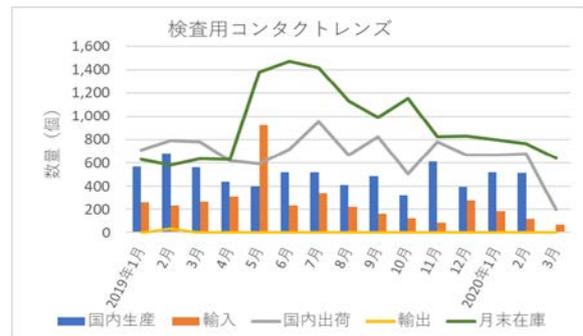


図2. 検査用コンタクトレンズの統計データ



図3. 持続的自動気道陽圧ユニットの統計データ

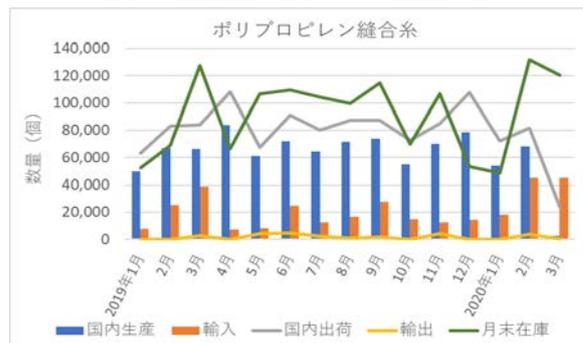


図4. ポリプロピレン縫合糸の統計データ



図5. 加温加湿器の統計データ



図6. 歯科矯正用アンカースクリューの統計データ



図 7. 歯科咬合スプリント用材料の統計データ

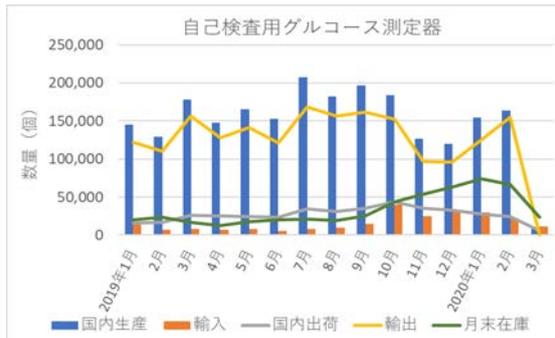


図 8. 自己検査用グルコース測定器の統計データ



図 9. 体開口部単回使用体温計プローブの統計データ



図 10. 長期的使用胃痙攣ボタンの統計データ



図 11. 内視鏡用灌流・吸引装置の統計データ

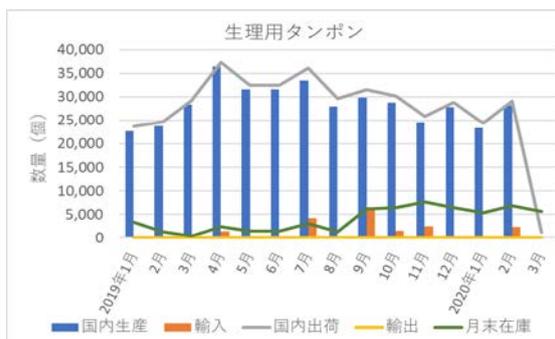


図 12. 生理用タンプンの統計データ

今回抽出した医療機器は、その抽出方法から考えると年間を通じて国内出荷数量の変動が少なく、かつ2020年1~2月までは出荷数量の減少がほとんど見られなかったものの、2020年3月に入り大幅に減少した機器です。減少している項目も出荷数だけではなく、「検査用コンタクトレンズ」や「ポリプロピレン縫合糸」などでは国内生産も大幅に減少していました。一方で、「持続的自動気道陽圧ユニット」や「加温加湿器」などでは輸入数も大幅に減少していました。また、輸入依存度の高い機器は在庫数が急激に減少している傾向もみられました。

これらの数量が減少した理由は断定こそできないものの、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響を受け、国民が不要不急の医療機関の受診を控えたことや国内外の医療機器製造業者の生産活動や輸出入に支障を来した可能性が考えられます。この傾向は4月も継続していたと考えられるため、4月の薬事工業生産動態統計調査(月報)の公表値にも注目したいと思います。

出所：*1.薬事工業生産動態統計調査 月報

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/105-1c.html>

(医療機器政策調査研究所 青木信宏 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ  @JFMDA_MDPRO
Twitter で医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。